

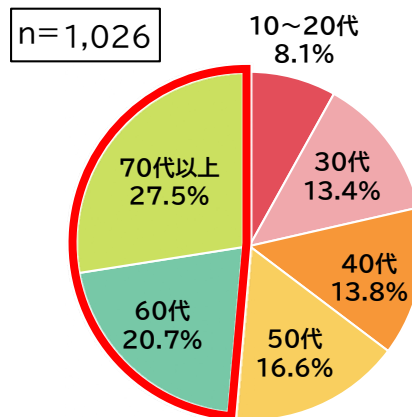
(3) 市民アンケート調査結果について

1. 調査概要・基本属性

項目	概要
対象者	満18歳以上の浜田市民
配布数	2,000票
抽出方法	地区別・年代別の人数を決めた上で、住民基本台帳をもとに無作為抽出
配布方法	郵送
回答方法	返信用封筒による郵送またはWebアンケートでの回答 (回答用紙にWebアンケートに遷移するQRコードを掲載)
調査期間	令和7年11月12日～11月28日
回収数	1,030票(郵送:756票、Web:274票)
回収率	51.5%

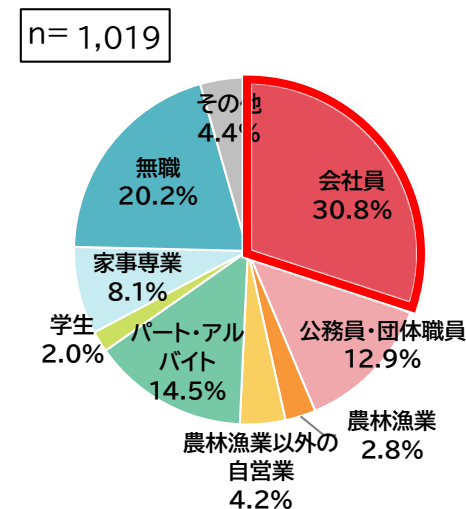
■年代

・60代以上が約半数(48.2%)



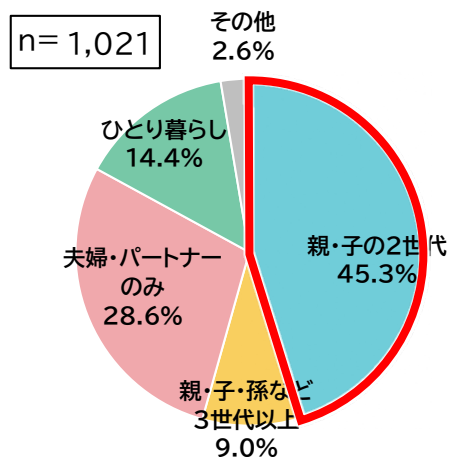
■職業

・会社員が最も高く30.8%
・65.2%が就労



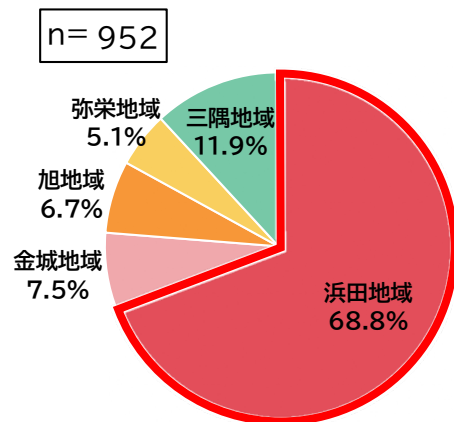
■家族構成

・親・子の2世代が最も高く45.3%と核家族化が進んでいる



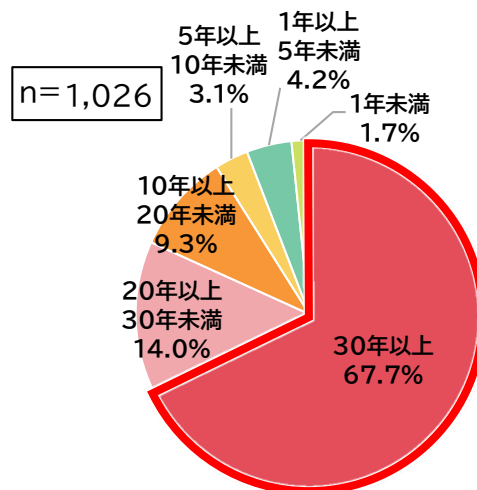
■お住まいの地域

・約7割が浜田地域に居住



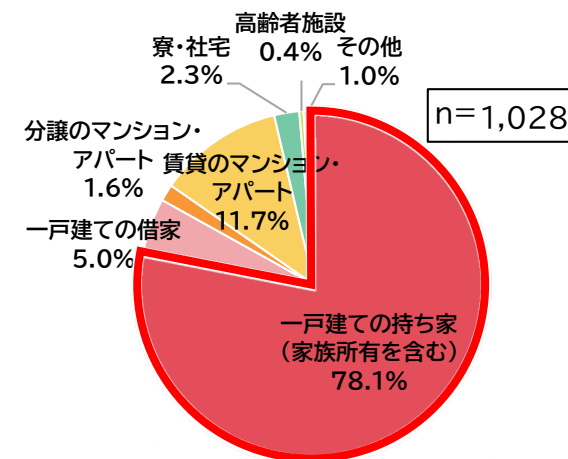
■居住年数

・約7割が浜田市に30年以上居住



■居住する建物形態

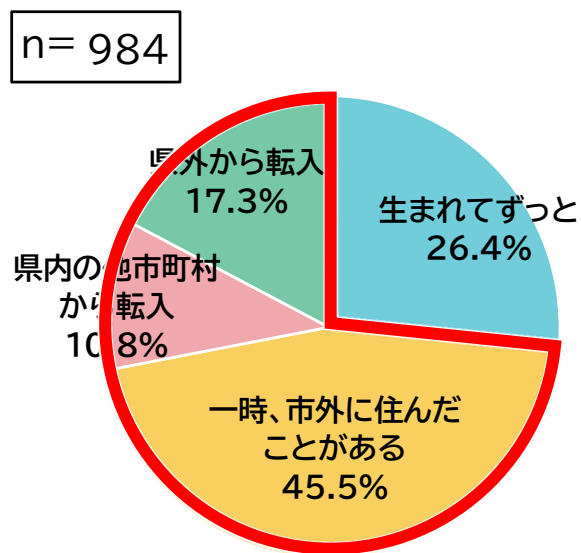
・約8割が一戸建ての持ち家に居住



2. 居住歴について

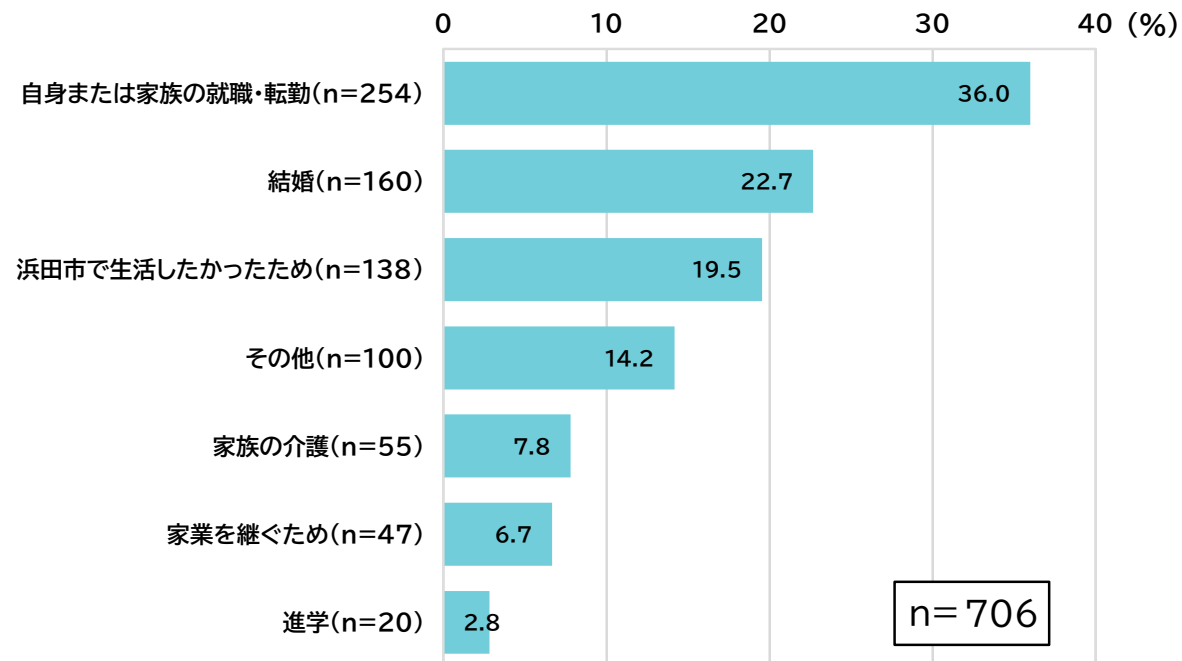
- 回答者の約4分の3は浜田市外の居住歴があると回答している。
- 浜田市へ戻った・転入した理由は「自身または家族の就職・転勤」が最も高く36.0%、次いで「結婚」が22.7%と高く、**就職や結婚といったライフイベントが居住地選択のきっかけ・判断基準**となっている
- その他の回答内容には、「親の都合」「離婚」「家督相続・跡継ぎ」「病気・療養」などがあつた。

■ 浜田市への居住歴



■ 浜田市へ戻った理由・転入した理由

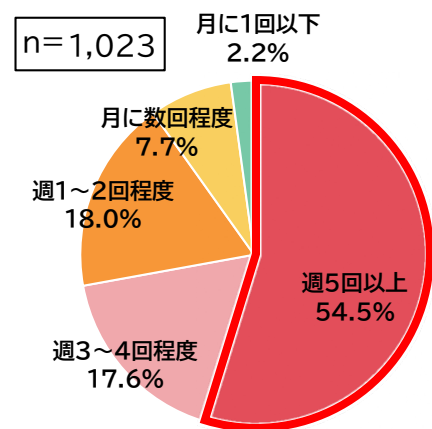
※「一時、市外に住んだことがある」「県内の他市町から転入」「県外から転入」と回答した方のみ



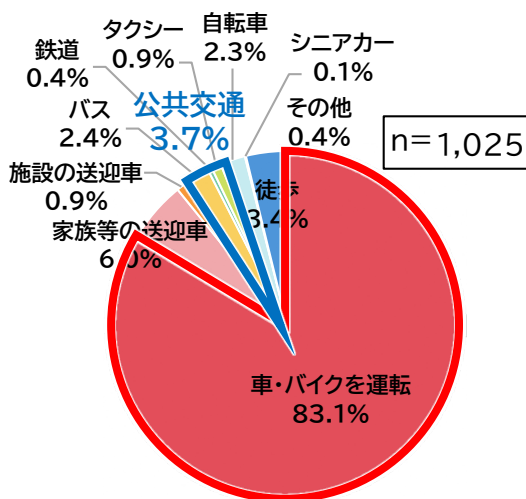
3. 外出行動について

- 半数以上が週5回以上外出している。
- 1番多い交通手段は「車・バイクを運転」(83.1%)、2番目に多い交通手段は「家族等の送迎車」(41.8%)、3番目に多い交通手段は「徒歩」(40.3%)が高い。
- **公共交通の利用は非常に限定的**であり、中でも鉄道の利用が低い。

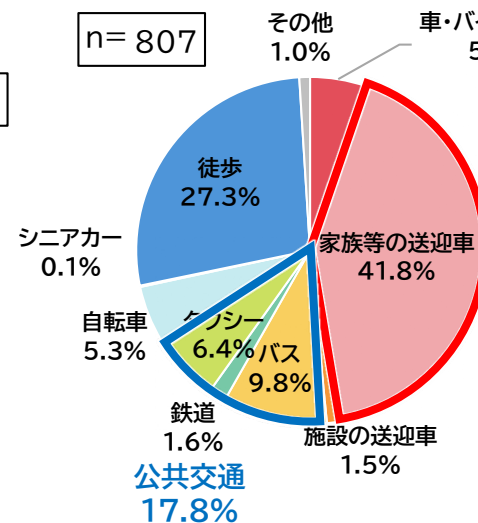
■ 外出頻度



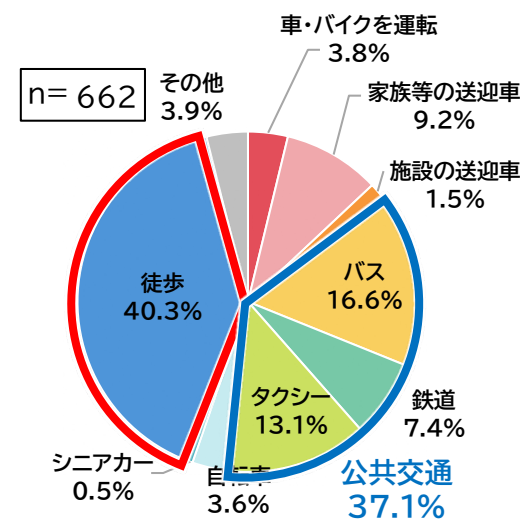
■ 交通手段(1番多い)



■ 交通手段(2番目に多い)



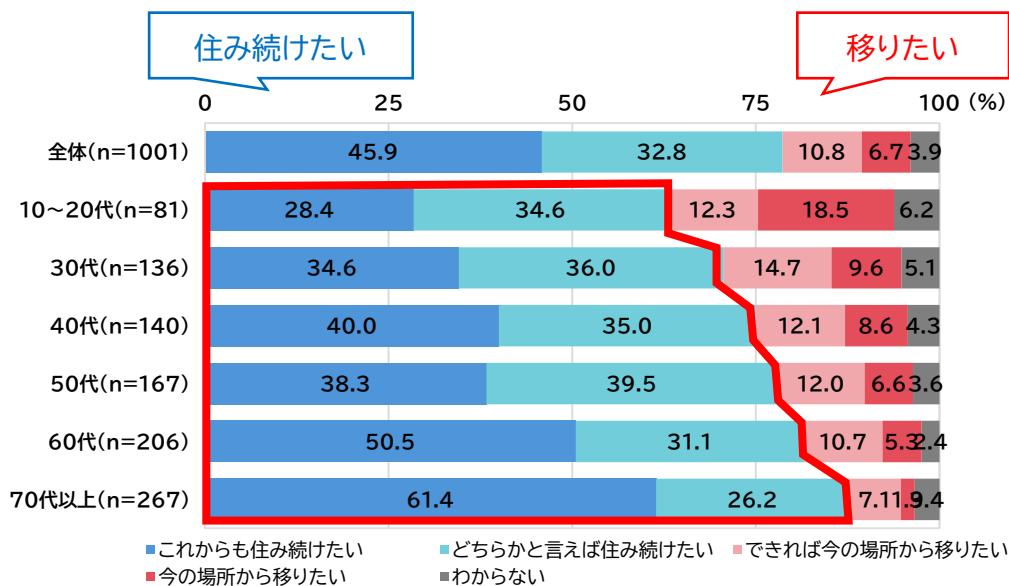
■ 交通手段(3番目に多い)



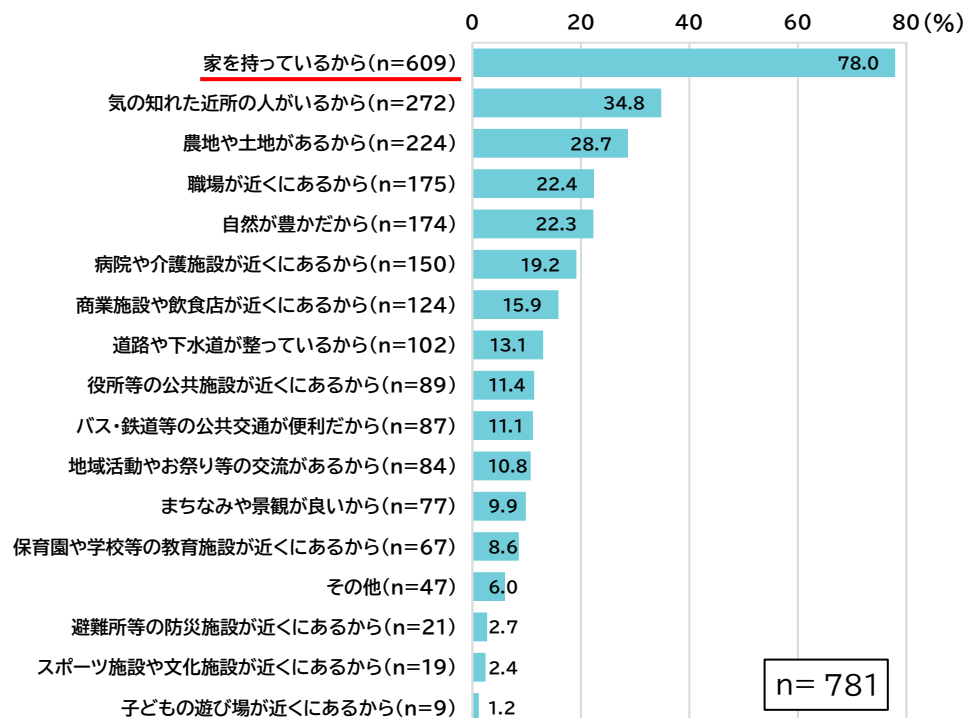
4. これからの居留意向について

- 全体の78.7%が、「これからも住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」と回答している。
- **若年層ほど、今の場所から移りたいと考える傾向**がある。
- 現在の場所に住み続けたい理由は、「家を持っているから」が78.0%と他に差をつけて最も多く、次いで「気の知れた近所の人がいるから」が34.8%となっている。**一戸建ての持ち家に住んでいる割合が高いことから、住宅を理由に引っ越さない、または引っ越せない人が多数いる**と考えられる。

■ これからも現在の場所に住み続けたいか(年代別)



■ 住み続けたい理由 (住み続けたいと回答した方への設問)

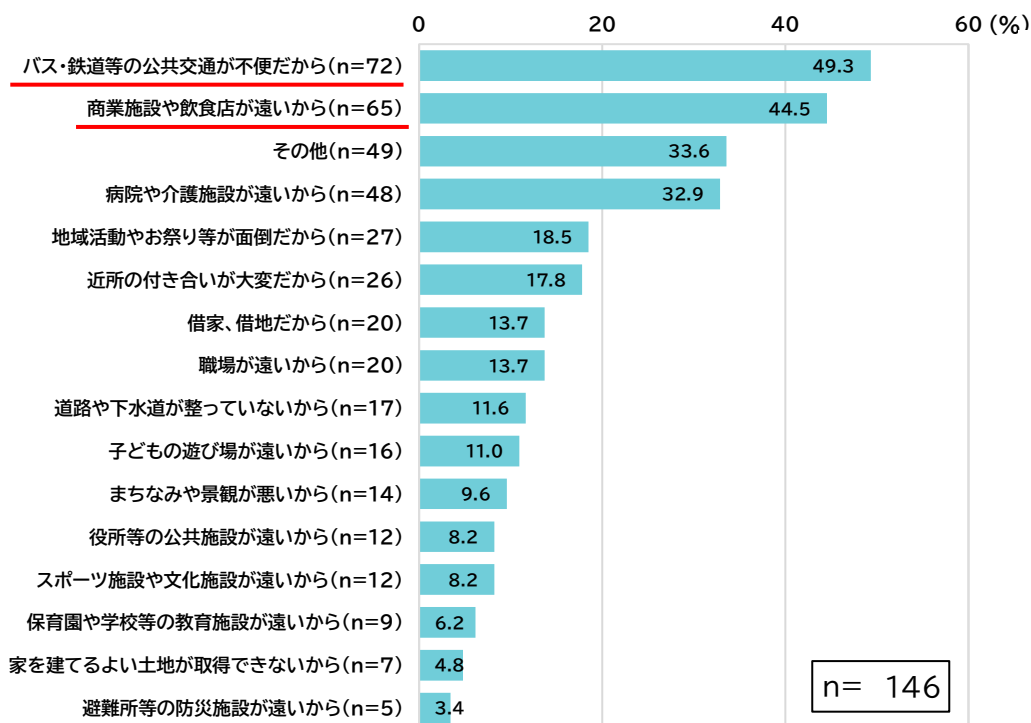


4. これからの居留意向について

- 全体の17.5%が、「できれば今の場所から移りたい」「今の場所から移りたい」と回答している。
(前ページのグラフより)
- 別の場所に移りたい理由として、「バス・鉄道等の公共交通が不便だから」(49.3%)、「商業施設や飲食店が遠いから」(44.4%)が多くなっている。
- 移りたい場所は、全体の半数以上が「浜田市外」と回答しており、特に**若年層ほど「浜田市外」に移りたいと考える割合が高くなる**傾向があった。

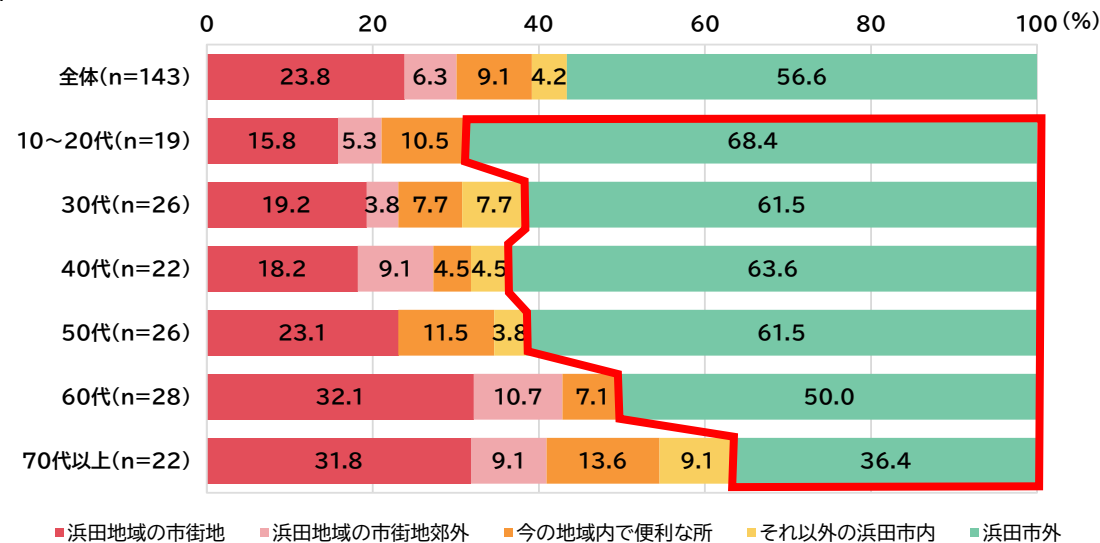
■別の場所に移りたい理由

(別の場所へ移りたいと回答した方への設問)



■移りたい場所(年代別)

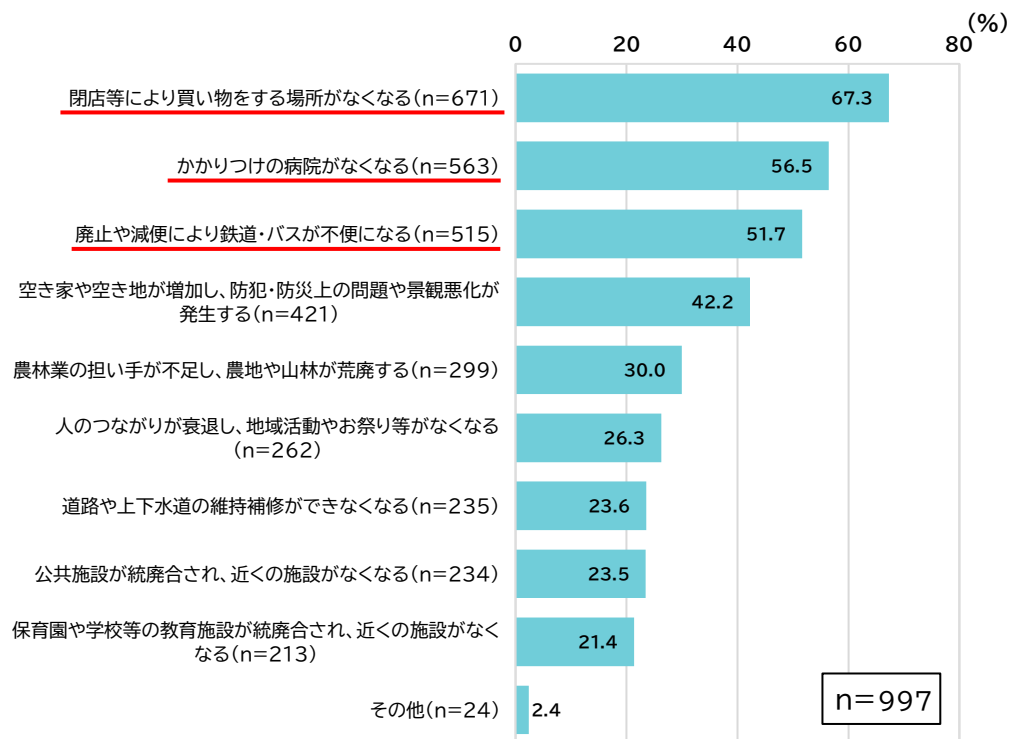
(別の場所へ移りたいと回答した方への設問)



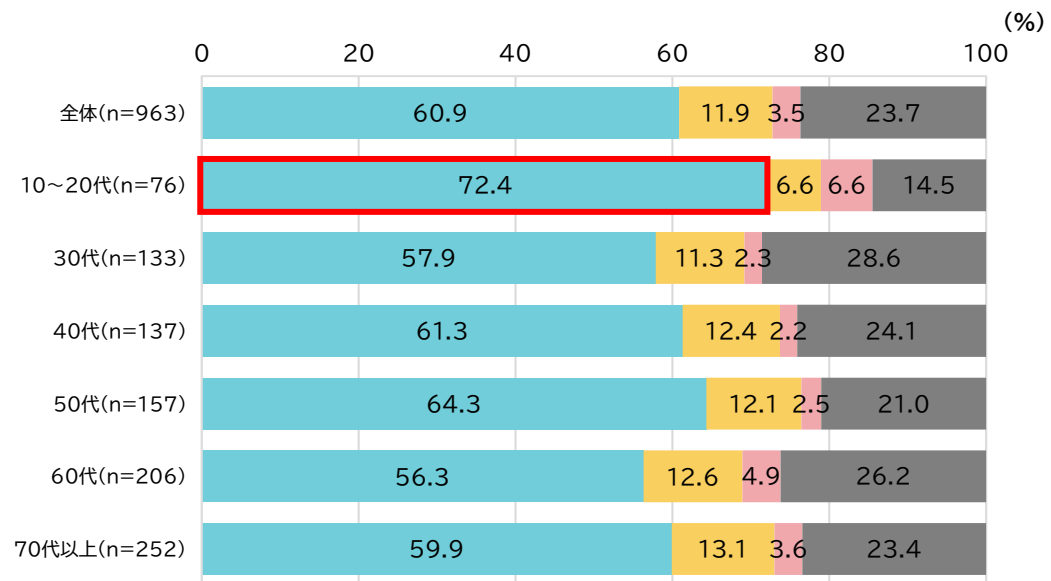
5. いつまでも暮らしていけるまちづくりについて

- 人口減少や高齢化の影響により、商業施設・医療施設・公共交通等の生活サービスの減少が心配されている。
- いつまでも暮らしていけるまちにするためには、「**徒歩や公共交通で移動できる範囲に店舗・病院・公共施設等を集め、なるべくその周辺に住むことでまちの効率化を進める**」という考え方への支持が高く、特に10～20代では72.4%がこれを選択している。

■人口減少や少子高齢化により、普段の生活に影響しそうなこと



■いつまでも暮らしていけるまちにするための方策(年代別)

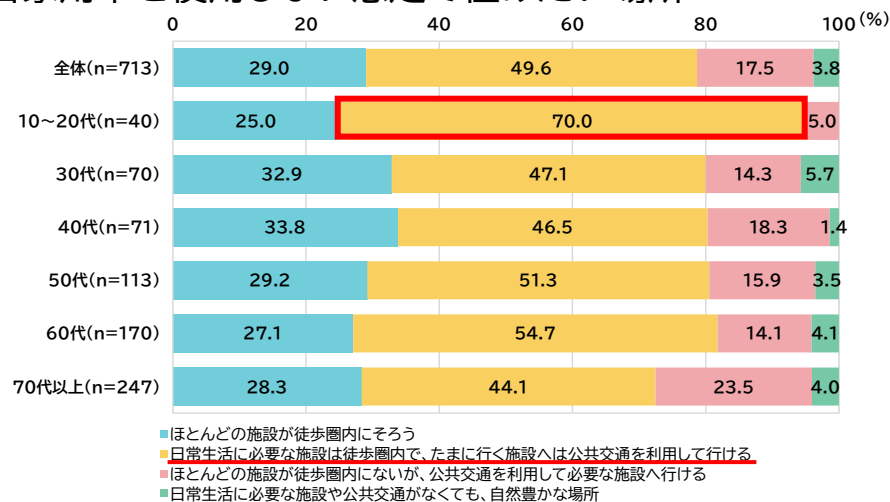


- 徒歩や公共交通で移動できる範囲に店舗・病院・公共施設等を集め、なるべくその周辺に住むことでまちの効率化を進める
- 住民負担が増加しても、いまの道路・下水道・学校等の公共施設や公共交通を維持する
- 大幅な住民負担を行ってでも、郊外型の住宅開発やそれに伴う道路・下水道・学校等の公共施設・公共交通の整備を積極的に行う
- わからない

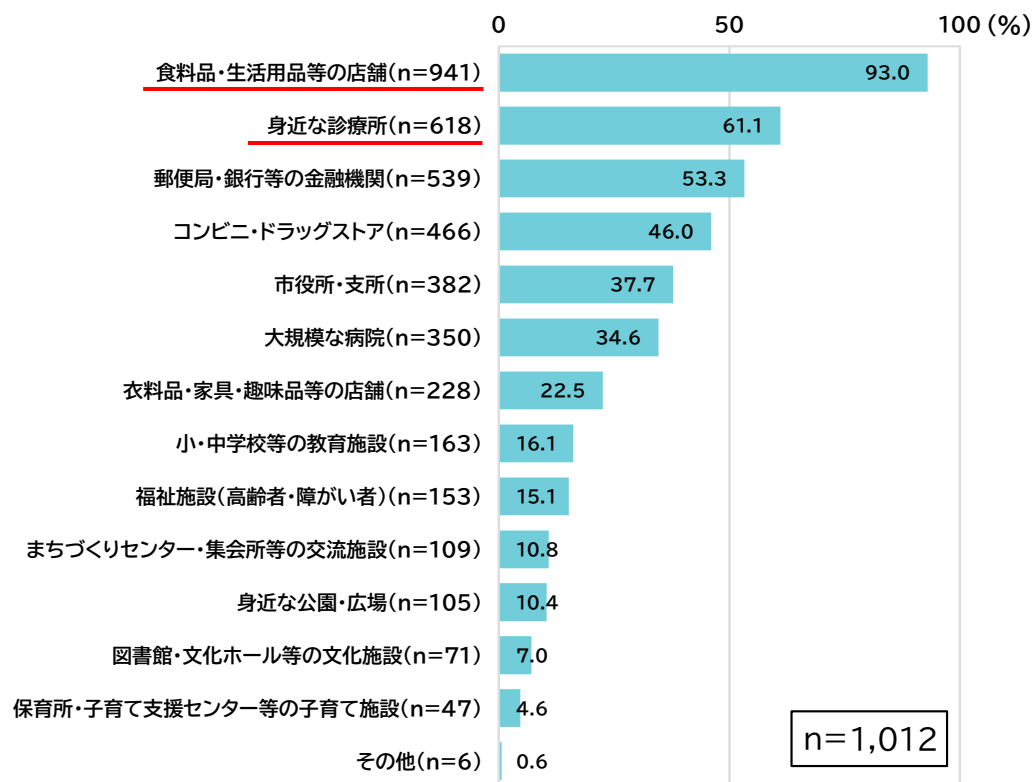
5. いつまでも暮らしていけるまちづくりについて

- 自家用車を使用しないと想定した場合に住みたい場所は、いずれの年代も「**日常生活に必要な施設は徒歩圏内で、たまに行く施設へは公共交通を利用して行ける**」が最も多く、特に10～20代が多かった。
- 自家用車を使用しない想定で、自宅から徒歩や公共交通で行ける範囲に特に必要な施設は、「食料品・生活用品等の店舗」が最も多く93.0%、次いで「身近な診療所」が61.1%となった。
- 浜田市に新たにできたらよい、増えたらよいと思う施設については自由記述での回答を収集したが、「映画館」が特に多く、次いで「書店」「カフェ」「スーパー」の回答があった。

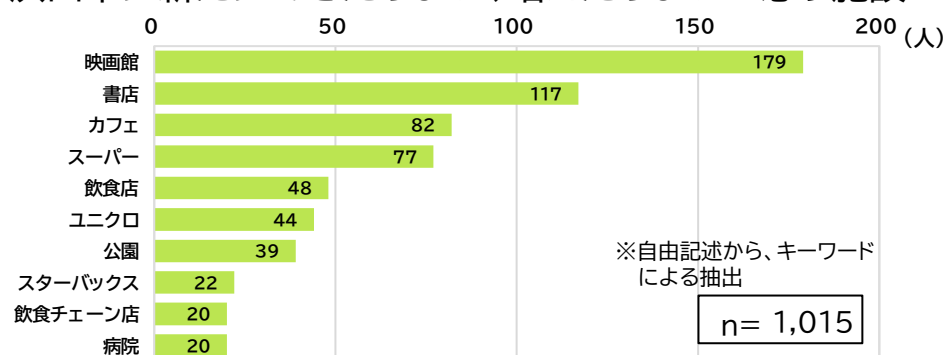
■自家用車を使用しない想定で住みたい場所



■自家用車を使用しない想定で、自宅から徒歩や公共交通で行ける範囲に特に必要な施設



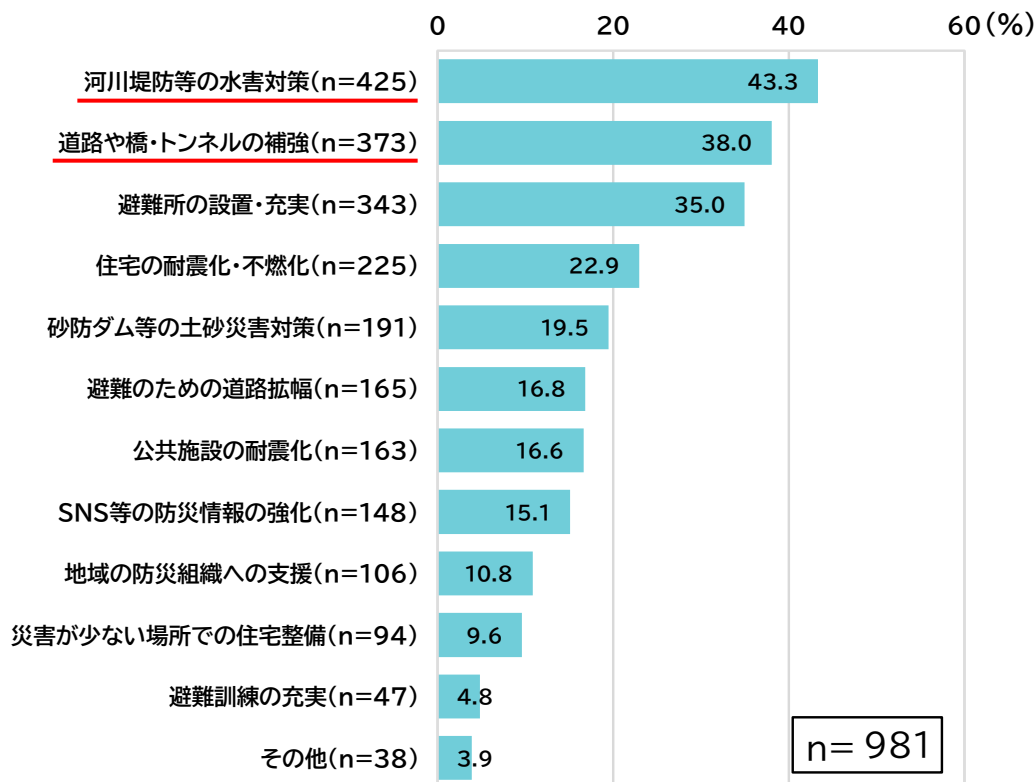
■浜田市に新たにできたらよい、増えたらよいと思う施設



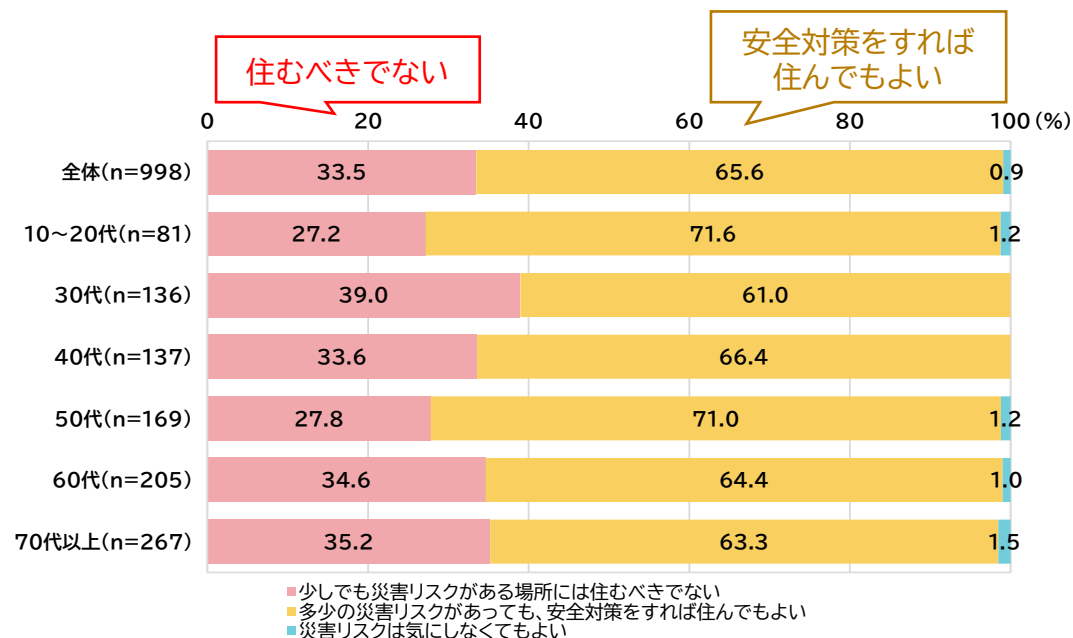
6. 災害対策について

- 行政に災害対策として行ってほしいことは、「河川堤防等の水害対策」(43.3%)、「道路や橋・トンネルの補強」(38.0%)など、基盤インフラの防災対策が多かった。
- 災害リスクがある場所に住むことに対しては、どの年代も3割前後が「少しでも災害リスクがある場所には住むべきでない」、残り6～7割が「**多少の災害リスクがあっても、安全対策をすれば住んでもよい**」と回答している。

■行政に、災害対策として行ってほしいこと



■災害リスクがある場所に住むことに対する考え方



7. 自由意見の抜粋

分類	具体的な内容(抜粋)
雇用・産業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の市外流出を防ぐために企業誘致が必要。 ・若い人たちが出ていっても戻ってきたいと思えるまちづくりができればいい。働く場所や給料など増えると若い人たちも選べるのではないかと思う。
商業施設・飲食店等の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・買物は益田市へ行っている。浜田市にも、もっと店を増やしてほしい。 ・チェーン店を誘致して、雇用や人口を増やしてほしい。 ・高齢者も若者(県大生も含む)が充実できるような施設やお店があると良いと思う。
まちづくりに対する要望	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと活気があるまちにしてほしい。 ・子どもが安全で住みやすい地域にしてほしい。
若者対策	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人達が住み続けたいと思わせる市、町づくりを早急に考えないと浜田市は元気のない市になってしまう ・せっかく大学があるので若者が喜ぶ施設を増やしてみてもは。 ・将来的な人口維持のためには、高齢者への対処ではなく、若者世代を対象とした施策及びまちづくりを進めるべき。
公共交通について	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田市内を良くすることも大切だが、県外への交通手段を増やさなければ若い人はどんどん県外に出て行く。 ・運転出来なくなると思うとバスの回数も少ないので病院や買物行くのも困るな一と、思っている。 ・地域の中心部へ集約することを考えるなら、交通環境(バス便の新設)をきちんとしないと住み慣れた場所を離れないといけない人もでてくると思う。
災害・防災について	<ul style="list-style-type: none"> ・防災放送が聞こえない ・高齢者・障がい者・言葉の通じない外国人の就労滞在者等の生活弱者に対しても、防災、安全についての気配りが行き届くような配慮を。
都市機能・人口の集約	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的に人口減に伴う税収の悪化が予見される中、水道や道路などのインフラ整備・維持に優先順位をつける必要がある。 ・お店が散ばってるので集中してると助かる。
インフラ整備	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道の整備 ・空き家を撤去し、道路・土地区画の整備をしてほしい。
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・住みよい町にするためには、人口ふやすこと。子供が生まれたら、お祝い金を出すなど、子育て支援を具体的に考えて、若い家族をふやすことを考えてほしい。 ・子供に対しての支援があまりないと思う。公園や屋内で遊べる施設などもない。

8. アンケート結果のまとめ

分野	主な意見
居住意向	<p>○現在の居住地への定着意向は高い 「これからも住み続けたい」+「どちらかといえば住み続けたい」:78.7% 住み続けたい理由:「家を持っているから」(78.0%)、「気の知れた近所の人がいるから」(34.8%)</p> <p>○ただし、若年層は3割以上が今の場所から移りたいと考えており、そのうち7割が市外を希望している</p>
移動手段	<p>○自家用車への依存度が極めて高く、公共交通利用は限定的 普段の交通手段:「車・バイクを運転」が83.1%</p>
まちづくりの方向性	<p>○コンパクトシティ志向が優勢 「徒歩や公共交通で移動できる範囲に施設を集約し、その周辺に住むことでまちの効率化を進める」:60.9% 自家用車不利用を想定した場合の居住希望:「日常的に利用する施設は徒歩圏内、たまに行く施設へは公共交通利用」(49.6%)</p> <p>○日常生活に必要な店舗や診療所等が徒歩圏に求められている 徒歩圏に必要な施設:「食料品・生活用品の店舗」(93.0%)、「身近な診療所」(61.1%) 徒歩で利用したいと思う移動時間:「10分以内」(35.6%)、「15分以内」(29.4%)で約65%</p>
今後の生活に関する懸念	<p>○買い物と医療に不安あり 「閉店等により買い物する場所がなくなる」(67.3%)、「かかりつけの病院がなくなる」(56.5%)</p>
防災意識	<p>○身の回りの災害リスクを認識している人は約半数 災害リスクの認識:「把握している」(45.2%)、「災害リスクがあると思うが正確には把握していない」(44.3%) 災害リスクのある地域への居住:「安全対策すれば住んでもよい」(65.6%)</p>
自由意見より	<p>○若者の流出を食い止めるため、雇用創出や子育て支援の取組を要望する意見が多数</p> <p>○子どもの遊び場や子育て世帯への支援の不足が自由意見で指摘されている</p> <p>○若者にとってのまちの魅力向上の観点、雇用創出の観点から、特に大型チェーンの商業施設の誘致要望が高い 新たにできたら・増えたら良い施設:「映画館」「カフェ」「スーパー」「飲食店」「ユニクロ」などチェーン店の要望が多数</p>